

「9・18/満州事変」2019年公開学習会

天皇代替わりと改憲問題

～天皇と9条改憲の極めて深い関係～

2019年は改元・新天皇即位の報道でほぼ天皇漬けの一年となっています。「天皇が日本のアイデンティティー」「改元によって新しい時代が始まる」などなど、いやが上にも高まる代替わりお祝いムード。

「2020年には是が非でも憲法改正を」と明言する現政権の改憲動向と、天皇代替わりは決して別の問題ではなく、深い繋がりがあるのです。侵略加害の歴史において、天皇が果たした役割は何か？「国民の統合の象徴」を目指す「統合」とは一体何か？今年も「9・18/満州事変」を覚えるこの時に、憲法学の稲正樹先生と共に一緒に考えましょう。

いな まさき
講師：稲 正樹氏

(国際基督教大学平和研究所顧問・憲法学)

(論文)「アジアから見た日本の改憲・構造改革」『法律時報増刊 改憲・改革と法—自由・平等・民主主義が支える国家・社会をめざして』2008年、「アジアにおける平和・安全保障体制の構築」『法律時報増刊・憲法と有事法制—いま、憲法学から有事法制を問う』2002年、他多数。

日時：9月28日(土) 午後2時～4時(開場午後1時半)

会場：日本キリスト教婦人矯風会3階集会室

東京都新宿区百人町2丁目23-5

JR「大久保駅」徒歩1分

参加費：500円

どなたでもご参加ください



共催：キリスト者遺族の会・日本キリスト教婦人矯風会

連絡先：080-5412-9386(坂内)